

新著紹介

々に對しては自己防衛になり併せて此の種の國々の間の紛争の規模を制禦することになる。然し如何にして供給に事を缺かぬ國々の好戰的活動を抑制すべきかといふ問題になると却々に難しい。

將來に於て考慮すべき重要事態たるべき逆行的影響は如何なる國も戰時供給に當つて眞に自給自足であり得ない事と近代式戰爭には莫大量の必需物資原料の供給は之を全地球上より仰がねばならず自國內の資源に恵まれてゐる國でも此の事に變りはないなどの事情である。

適切な準備の問題とは此等多くの通商上の交易路を自由に開放する道と手段とを含んで居るが之は最も強大な國ですら恐らく其の權限外にあるものであらう。

軍備に關しては原料物資を驚くべき程大量に要する事を認識することは自ら宣戰布告へ性急な決意をするに當つて熟考躊躇することになる。(未完)

O Bruno Dietrich: Vom Wesen des Amerikaners. Wirtschaftsgeographie 10. Heft Berlin-Wien-Turich 1936 303.

本書は Bruno Dietrich 編輯する所の叢書 Wirtschaftsgeographie の第十卷で北米合衆國に就て造詣深き Dietrich が米國人の本質を簡單に述べたものである。

米國人は世界人としてその歴史が新しいにも拘らず英人と同等に見られてゐるが、それならば一體米國人の血管の中を流れてゐる血はその先祖(主としてゲルマン)の血であるか、それとも特殊な性質のものであらうか、彼はこの點から米國人の本質を明かにせんとした。而してその場合米國人を構成する骨組は人種と國民性であり、それに肉付けしてゐるのは個性と經濟精神であると彼は考へた。以下彼はこの四つの要素に就いて次々に述べて行く。

一、人種 アメリカは一つの Melting Pot 坩堝であるとも言はれてゐる。併し乍ら Dietrich はそうした考へ方を否定した。彼に依れば米國人は混血人種ではなく、一つの人種混合體であり、各人種要素が融合することなしに集積したものである。アメリカナイズされたと云ふことは合衆國の民主主義と國民精神への融合と見るのが正しい。従つて米國では二

つのグループの人種問題が存在する。即ち一つは米國人中の白色人種の人種の構成であり、他は有色人種の處置である。

第二の問題に於ては日本人、支那人の場合の如く移民禁止によつて既に解決済みのものもあるがメキシコ人や黒人の如く未解決であり、且強く解決に迫られてゐる問題もある。殊に米國の人口の約一〇%を占める黒人の處置は最も重大な問題である。白色米人の意識的人種孤立化は黒人の人種的自意識を強めた。併し生活標準の低く従つて賃銀の廉い黒人は米國の特定の企業にとつて不可欠の存在である。従つてこゝに二つの溝があり、しかもそこに何等の解決も見出されてゐない。それ故人種問題は有色人種に關する限り人種の清算と單なる集積の意味で理解される。

白色人種に就いては如何なる問題が存在するであらうか。

一九三〇年の國勢調査に於ては米國人の三分之一は外國生れか或はその第二世である。而して非ゲルマン民族の多數の移住者がゲルマンアメリカの維持に對して強い障害となることが大戦の少し前から判り始めた。(所謂 dirty white danger) 非ゲルマングループの入移住者は一九〇一年から一九一〇年迄に於てはゲルマングループのそれに三倍した。かくて再ゲルマン化の意味に於て非ゲルマン民族の清算と低い生活標準をもつ勞働人口の流入を制限するため移民法が發せられた。かくて人種清算の問題は英國偏重の意味で一應解決せられてゐる。

即ち米國に於ては各人種が混合して住み垺場としてではないにしても一つの統一體をなしてゐる。それならば「米國人」なる概念の内容は如何なるものであらうか。人種問題とは別に存在する如何なる力が國民の型を造り上げたであらうか。

二、國民の概念 獨立當初は纏つた國民性は問題とならなかつた。最初の一致は國語としての英語の採用に見られた。

自由の思想、聯邦の觀念及び言語は一つの綱をつくり、時と共に一つの方向をつくり、國民意識を統一し、國民性をつくり上げた。即ちこれは一種の垺場とも見られ、異つた内容の上に被せられた同じ殻の如きものである。アメリカナイズする最も重要な基礎は市民概念と市民意識である。それはすべての入移住者の目的が市民になることだからである。市民の意識的な尊重は國民意識と結び形式的な市民の稱號を獲得することは實質的には米國人になることを意味した。こゝに垺場の意味があるのである。更に國民の平均をもたらししたのは轉職の自由である。従業者は何等社會的な組織によつて特定の土地に結びつけられてなかつた。併し社會問題は一九二九年の景氣の下降以後嚴しく現はれた。工業並びに農業の機械化は多數の失業者を産み出した。最近の合衆國政府の諸政策はこの國民と國家の解釋の均衡の不安を物語つてゐる。だが經濟精神に於けるすべての變革は強力な情性率の下で憫んでゐる。それは國民の大部分が固執してゐる規格統一の精神である。それ故米國人は社會的劃一の分裂の兆候にも拘らず

少くとも大體としては統一された言語、市民意識、精神的劃一によつて同質のものと考へて差支へないであらう。

三、個性 人間の劃一化は個性をすてることを意味する。教育に於ては學ぶものゝ數が多いため精神的大量商品になつてゐる。精神的な規格統一は又日刊新聞によつて促進されるあらゆるものが劃一を目ざしてなされるのである。國家的個人的な自意識は最上級主義に源を發してゐるが更に又合衆國の經濟上の世界的な勢力によつて一層高められた。Monroe-Doctrine から經濟的帝國主義への變化は超國家的アメリカ經濟帝國に對する基礎となつてゐる。婦人の尊重と社會的な仕事及び教育に於ける婦人の活動は注目さるべき事柄である要するにすべてに共通なことは生活・思想・勞働に於ける規格統一によつて個性を弱めてゐることである。

四、經濟精神 個性は經濟生活に於て重要であるが經濟法則は米國人の本質を支配し、彼等の經濟精神を作つた。米國人の唯物的な生活の解釋は仕事は貨幣價值に於て量られることから來てゐる。従つて如何なる職業も輕蔑されぬ故米國人は頭腦勞働に就いても肉體勞働に就いても歐洲人と異つた職業の解釋をもつてゐる。勞働地と機械に對する關係に就いてのアメリカ人の解釋は貨幣價值のみに頼つたもので非人格的である。併し飢餓と困窮は現在米國人を彼等の心中を既に活潑に流れてゐる新しい精神的なものへ即ち社會問題の解決に押し戻した。

米國人には土地との結合が缺けてゐる。若し居住が大體に於いて完成され、同質の國民が造られるであらう時にはその結合が再び取戻されるであらう。米國人は屢々空間的國民(Raunvolk)であると言はれる。何故なら歴史を有しない米國人は同じ時代の土地に生活することが出来るからである。

以上 Dietrich は米國人を人種、國民性、個性、經濟精神の四つの要素に就いて分析し、米國人は外部に對しては宛かも一回で鑄造されたものゝ如く特別な種類の型として區別されるであらうと述べてゐる。併し彼はこの統一された米國人の中で既に分解の過程が進行中であることを指摘した。即ち米國人の定着が進むと共に廣い合衆國の氣候的・經濟的に異つた生活空間、環境は國民性の間に差異をつくりつゝあることである。それは劃一的になつた米國人が大きく地理的なグループに分けられることを意味する。こゝに空間的國民から歐洲の如き時間的國民への變化が見られ、それに依つて新しいアメリカの國民性がつくられるであらう。

筆者は Dietrich のかゝる米國人の本質に就いての考へ方が正しいものであるか否かと云ふことを判斷する程の知識を有しない。併し合衆國の研究者として知られてゐる彼のことであるから米國人に就いては充分な認識を持つてゐることゝ思はれる。兎に角筆者は本書を通讀して非常に教へられた點が多かつた。或る土地に關する地誌の理解はその土地の住民の本質を知ることによつて完全になされる。その意味でも簡

單に書かれては居るが本書は一讀する價值があると思ふ。更に最近の米國の事情を理解する基礎としても有益な書物である。勿論獨逸人の見た米國觀と云ふ意味で多少の割引は考へなければならぬにしても。殊に人種に就いて述べた項目は我々の關心を惹くものがあらう。又一度劃一的になつた米國人にその廣い空間の故に再び差異が生ずるであらうし、現にその兆が見えてゐると彼が述べてゐる點も興味のあることであらう。

(安藤)

Goldberg, Jakob: Die Standorte der polnischen Textilindustrie und ihre Lokalisationsprobleme. Wirtschaftsgeographie 3. Heft Berlin und Wien 1934 423.

Bruno Dietrich の編輯する叢書 Wirtschaftsgeographie の第三卷では Jakob Goldberg が波蘭の紡績工業の立地に就いての研究を發表してゐる。先づその内容から述べて見た。

彼は波蘭の紡績工業の地方化に於て如何なる要素がそれを決定したかを明かにすることに本書の課題を置いた。

最初に彼は波蘭に於ける經濟構造の發展を紡績工業を中心として觀察し、それを波蘭王國の時代王國の分割以後及び現代の三時期に分つて叙述してゐる。次には紡績工業の立地の現在に於ける分布とその生産が取扱はれその空間的配置から

彼は Lodz, Bialystok, Bieltitz の三工業地域に分けてその各々に就いて分析を進めて行つた。波蘭の紡績工業の主體をなす Lodz 地域の叙述は頁數から云つて本書の殆ど半分を費してゐることからも知られる如く最も詳細を極めて居り、この地域の紡績工業の發展史は又波蘭のその發展史であることを明かにしてゐる。Lodz 地域の叙述は先づ地域の劃定とそれを波蘭の紡績工業に於て持つ意義及びその基礎的部門が木綿工業と羊毛工業であることから始まつてゐる。而して Lodz 地域の工業活動の發展史は次の二つの時期に分けられてゐる。一、十九世紀半頃迄の紡績工業が手工業的性質のものであつた時期。二、十九世紀の六十年以後から現在迄の工業的大經營の時期。十九世紀の五十年から六十年に掛けては工場制手工業 (Manufaktur) から機械の使用への紡績經濟が移つた過渡期と見られてゐる。彼はこの二つの時期に就いてそれ／＼紡績工業の發展史を述べ、更に工業都市 Lodz の經濟景觀を描寫してゐる。Bialystok, Bieltitz の二工業地域の叙述は極めて簡單で紡績工業の如何なる部門が主として存在するかと云ふことゝその經營形態、發展史、販賣市場、立地要因が略述されてゐるに過ぎない。之等の各地域に就いての叙述の後に波蘭の紡績工業の原料及び動力獲得の狀態が述べられ、最後に販賣狀態とその變化が明かにされて終つてゐる。

彼は波蘭の紡績工業の地方化の研究に於て次の如く結んでゐる。波蘭の紡績工業の發展に於ては工場制手工業から資本

主義的工業經營への移行を示してゐる。而して Lodz 紡績工業地域の發生に對しては自然的な前提は經濟政策に比して僅かな意義しか有しない。Bieltitz 紡績工業地域の出現は好都合な交通上の位置に歸せられ、動力に制約されてゐる。たとへば Lodz 紡績工業地域の發生がロシアの經濟政策的な處置を基礎としたにしても、原料拘束性と傳統拘束性(工業の傳統は國外からの移住者と共に波蘭に移植されたと云ふ意味で)は一定の役割を演じた。外國の原料が加工され、機械が採用されると共にこの地理的要素はその意義を全く失つてしまつた。現在では炭坑に比較的近いことが唯一の強味である。

Bialystok の紡績工業は經濟政策から發生した。

波蘭の紡績工業は殆ど外國の原料に依存して居り、その原料拘束性は全く存在しない。

波蘭の紡績工業の設立者は獨逸人の移住者であり、彼等はそれを手工業から資本主義的な大工業に迄導いた。従つて波蘭の紡績工業は植民地的特色を有し、現在も尙異國的な性質を擔つてゐる。

以上筆者は Goldberg の論文に就いて其の構成と結論を簡単に述べてきた。彼の工業現象の取扱ひ方は生産費の分析から議論を進めて行くのでなく、現實の工業の分布から地域を劃定しそれに就いて發展史的に追究して何故其處に存在するかと云ふことを解釋しようとしてゐる。即ち國民經濟學は Sein を研究し、經濟地理學は Gewordensein を研究すると云ふ

Dietrich の考へ方に彼は従つてゐる。この態度は Nikolaus Creutzburg の經濟地理學の解釋と軌を一にして居り、Theodor Kraus によれば地理的經濟學とされてゐる。

本書は僅か四十二頁の小冊子に纏められてゐるのであるが波蘭の經濟事情の變遷を知るのには適當な書物であると思はれる。文化的な水準の低かつた波蘭、四周の強國に壓迫されて一度は獨立國としての存在をすら失つた波蘭に如何にして紡績工業が起り、現在迄續いて來たかを知ることには興味が深い。殊に獨逸人の移住、ロシアの關稅政策、農奴の解放が自然條件よりも紡績工業の發展に密接な關係をもつてゐると云ふことは自然條件を過大に見勝ちな我々の注意すべき實例である。彼は波蘭の各地域の紡績工業を動力拘束的等の言葉で特徴附けてゐるがその條件が他の條件に比して持つ力の強さをもつと明確に示して欲しかつた。勿論これは生産費の分析から入つた方がたとへば限度はあつてもより嚴密に出て來るであらう。此處では單に必要な一條件を挙げたと云ふのに留つてゐる。

地圖は僅か一葉しか挿入されてゐないが文章も平易であり波蘭地方の事情を知らうとする者にとつては一讀する價值は充分にある。(安藤)

雜 報